

第 10 回京都山城便教会

平成 29 年 2 月 11 日 (土)

第 10 回目を迎えた京都山城便教会。今回は第 1 回目を行った宇治田原町立維孝館中学校で行わせていただきました。昨晚からの雪で、あたりいったいは白銀の世界でしたが、車から降りると「時を守り、場を清め、礼を正す」という森信三先生のお言葉が朝日を浴びていました。最高のシチュエーションで第 10 回をスタートさせることができました。



いつものように 8 時 30 分から開会式。自己紹介のあと、本日のテーマを発表。今回のテーマは「なぜ、掃除をするのか」。そのテーマについてディスカッションしていただきました。

その後、次のような発表をしていただきました。

なぜ、掃除をするのか。今までは、すっきりする、きれいにするためだったが、最近考えることがある。私の両親は認知症で、こちらがきれいに掃除をすると、混乱する。認知症の人は急激な変化に対応できないので、こちらが良かれと思ったことが、相手にはそうになっていない。今日も朝から書類がないとあって、大変だった。きれいにするというのは、こちらの独りよがり、相手のことを思ってさりげなくすることが大切のように思う。まだどうしたらいいかわからないが、今までとは考えが変わってきた。

この発言に、参加者全員が共感。そして、私から鍵山先生の話をしていただきました。

鍵山先生は当初ローヤルという会社を経営されるが、当時の車業界は荒みだらけであり、会社も汚く、社員も荒んでいた。「少しでもこの会社から荒みをなくしたい」と始められた掃除であるが、10 年間一人で掃除をされることとなる。それでも「荒みをなくしたい」「少しでも良くしたい」という気持ちで続けてこられ、それが今、大きな輪となっている。私達教師は、「生徒を少しでも良くしたい」、「日本の教育を良くしたい」というマインドを持つことが大事で、それを毎日身近に継続できるのが掃除なのではないでしょうか。

このような開会式を終え、トイレへと向かいました。

今回は体育館のトイレ。学校の中で一番手付かずのトイレだそう。尿こしをとると、独特の匂いに包まれ、非常にやりがいのあるものでした。道具の説明を終え、いざ便器へ。そこから 1 時間以上繰り広げられる尿石との戦い。手で感じながら、サンドメッシュとスクレイパーを巧みに使い分け、便器と向かい合う参加者の皆さん。尿石は、経験された方はお分かりだと思いますが、最初はなかなか取れず、急に取れる瞬間がやってきます。一人また一人とそれを感じていく参加者。どんどんトイレが熱気に包まれていきました。そんな中、1 つの便器で事件が。なぜか水が詰まったのです。ラバーカップを使うと、はがした尿石があふれ出てきました。そう、尿石が詰まっていたんです。参加者の皆さんもびっくり。それぐらい大量の尿石をとり、便器を磨き上げました。



<Before>



<After>



【参加者の感想】

- ・掃除は上から下にしていくという話があったが、それは下がきれいであっても、上が汚れていれば、落ちてきてよごれてしまうからであるが、これを人間関係におきかえると、上に立つ人が常にきれいでないと下が汚れてしまうということ。そういうことに気付かせていただいた。
- ・見えないところを見に行くことが大事だと感じた。そうすると、今まで気付かなかったことに気付く。生徒に対しても表面上見えるところだけではなく、その中に隠れているものを見に行く。そうやって、見えないところに心を寄せる大切さに気付いた。
- ・「このトイレを作った人は喜んでくれるだろうな」とふと浮かんだ。そして同僚の理科の先生がこんなことを言われていたのを思い出した。「私は教科書選定をする際にくまなく読むようにしている。そして、教科書のどこがどう変わったか、そしてその改訂はどのような思いでされたのかを考えるようにしている。実際に、『こんな思いでこの部分を変えられたのでしょ』と教科書会社の方に言うと、涙を流された」と言っておられ、それがこのタイミングで浮かんできたのは不思議だった。でも、そういうことを大切にしていきたいと思う。
- ・今年に入って、「おだやかにやろう」と決めて掃除をしている。今までは、「クソッ、取れない」と思いながらやっていたり、時間に追われている感じがあり、こういった邪念が出てきていた。しかし、今日は時間も気にせず、本当に便器だけと向き合えて、おだやかにできた。「おだやかにやる」と決めてから、隣でサボっている生徒も気にならなくなり、逆に自然と生徒が頑張るようになってきた。この気持ちで続けていきたい。

第10回も本当に温かい素敵な便教会となりました。トイレ掃除の後はトイレが神々しく輝くと同時に、皆さんの笑顔が輝くのが印象的でした。学校に戻って、今度は生徒の笑顔を輝かせたいと胸に誓い、第10回を終了しました。

(小笹大道)

